

## 児童発達支援センターの設置について

公明党  
五十嵐 みさ 議員



**質問** 児童発達支援センターの設置について、当市の第2期障害児福祉計画策定における考え方を伺う。

**市長** 本計画に係る国の成果目標は、令和5年度までに児童発達支援センターを各市町村または各圏域に少なくとも1カ所以上設置するとしている。現在策定を進めている第2期障害児福祉計画において、国の指針に基づき成果目標を設定すると

もに近隣市の状況やニーズを踏まえ広域的対応も視野に検討を図りたい。

### 公園や緑地の整備、保全等について

**質問** 公園・緑地の整備等の計画策定の見直し、史跡と重複している公園の整備方針、緑地保全等に係る市民参加の仕組み作りについて伺う。

**市長** 公園の現況調査が令和2年度中に完了予定で、調査結果を基礎資料とし、公園施設長寿命化計画を

策定していく。史跡と重複している公園の整備方針については、関係部署で連携し「史跡を改変せずに適正に保存する」との共通認識のもと適正管理に努めたい。また、市民参画については、公園ボランティア、福生萌芽会等それぞれの公園で活動される皆様との意見交換会等を実施し、ご意見等をいただきながら個別の維持管理計画を策定してまいりたい。



▲市の指定文化財として史跡指定されているみずくらいど公園

## 公共施設における通信環境の整備について

正和会  
佐藤 弘治 議員



**質問** 感染症対策の観点から様々な場でリモートワークやWEB会議が進められているが市庁舎における通信環境の整備について所見を伺う。

**市長** 庁内ネットワークに接続するためのアクセスポイントの一部の会議室に整備し活用している。インターネットに直接接続できるWi-Fi環境はなく、WEB会議を行う際は専用のタブレットからLTE通

信で接続している。席を移動し、密を避けて仕事を行うことは感染症対策として有効だが、Wi-Fiが使える場所とアクセスできるパソコンの数に限りがある。現在、自席以外での勤務を含め、テレワークについて庁内で検討が行われており、導入されることになれば庁内ネットワークに接続できるWi-Fi環境の増強を進める必要があると考える。

### 障害者の就労支援について

**質問** コロナ禍における障害者就労支援施設の状況を伺う。

**市長** 各事業所では、3密にならない工夫をし、在宅での作業を希望する方に対しては、進捗確認や健康管理・相談などを電話で行う代替的サービスで就労支援を継続してきた。サービスが滞ることのないよう各事業所への支援に努めてまいりたい。



## 障害者就労継続支援施設等への通所者交通費助成について

日本共産党  
池田 公三 議員



**質問** 就労継続支援B型事業所で働く方々は、低い工賃で、交通費も自己負担の場合が多く、働く意欲にも水を差しかねない状況にある。自治体が交通費を助成すれば、障害者の自立と社会参加、共生の社会を作ることにつながる。市の所見を伺う。

**市長** 就労継続支援B型事業所は、通常の雇用が困難な方が就労に必要な知識や能力向上の訓練・支援を受

けながら生産活動を行い、ある程度自由に賃金・就労体系を組むことが可能となっている。市では、タクシーおよびガソリン費用助成事業、福祉バスの運行等、さらには、都営交通の無料パス、JRおよび私鉄旅客運賃割引制度のご案内等、様々な交通支援を行っている。ほかに心身障害者福祉手当の支給等も行っており、交通費の助成は現在検討していない。

**質問** 身体障害者3級以下、愛の手帳3度以下の方は、タクシー費用およびガソリン費用助成を受けられない。障害者基本法では、市町村は障害者が特性、条件に合わせて働けるよう、制度を整備しなければならないとする。立川市、青梅市くらいの通所費として、事業予算の試算は、

**福祉保健部長** 検討していないため、試算はしていない。



## 待機児童ゼロ及び保留児童について

立憲民主党  
市川 佳樹 議員



**質問** 当市では、5年連続で待機児童がゼロだが、令和3年4月も待機児童ゼロの見込みか。待機児童ゼロを長年継続できている理由を伺う。また、制度上、待機児童とならない保留児童とはどのようなケースで、例年どの程度発生しているかも伺う。

**市長** 令和3年4月入所の待機児童の見込みは、現在一次申請を精査している段階で確定的なことは申し

上げられない。一次申請数は例年と同程度だが、希望の保育園が一部に偏るようなことがあれば待機児童が発生する可能性は皆無ではない。保育園の担当窓口では、申請の段階で希望園の偏りを見極め、保護者にアドバイスし、いずれかの園に入れるよう対応しており、コンパクトシティの強みを生かしたきめ細やかな取り組みが待機児童ゼロを達成し続け

られる一要因と考える。ハード面では、平成27年度に開始した新制度への対応のため、国や都の補助金を活用し、保育所の整備による定員増を推進してきたことも、増え続ける保育ニーズに対応できている要因と考える。また、保留児童とは、特定の保育園1園のみを希望することにより入園できない状態となる児童を指し、ここ数年は、十数人程度である。



▲保育園の給食の様子

## 横田基地における米軍機の激増する飛行回数と外来機の訓練や任務について

日本共産党  
市毛 雅大 議員



**質問** 横田基地における騒音の発生回数増加の原因として、横田基地所属で無い外来機の影響もあるのではと推察する。世界中から複数の飛行機が来ており移動のためのみならず、訓練も行われていると思われる。このような実態に対する市の見解は、

**市長** 航空機騒音は基地周辺住民の生活に大きく影響する。横田基地に関する東京都と周辺市町連絡協議

会から市街地上空での低空飛行や旋回飛行を行わないこと、横田基地所属以外の部隊による飛行訓練を極力行わないこと等を要請している。今後も粘り強く騒音対策に取り組む。

### 泡消火剤に含まれる有機フッ素化合物による地下水汚染について

**質問** 東京新聞に「有害物質の血中濃度が府中は2倍、国分寺は1.5倍。昨年、浄水所で指針値超え」と

の記事が10月に掲載された。記事では横田基地で過去に土壌に漏出した泡消火剤が多摩地区の水道水の汚染源である可能性を指摘する声もあることを報じているが、市の見解は、

**市長** 都の水質検査の結果では、武蔵野台浄水所における有機フッ素化合物の数値は水道水の暫定目標値を下回っている。国及び都の動向を注視し、引き続き情報収集に努める。



▲米海軍の対潜哨戒機(YOKOTAJOHOのブログその2より)